

年間計画や指導案のひな型を校長が示し、全教師で練り上げる

東京都 府中市立府中第三中学校

府中市立府中第三中学校は、2011年度の校内研修のテーマを「言語活動の充実」と設定し、全教師が各授業に言語活動を主体的に取り入れている。各教科のねらいを達成するための取り組みと、特別活動や日常的な場面での取り組みとを関連させ、効果を高める言語活動を目指している。

生徒の現状

- ・感受性が強く、豊かな内面性を持つ
- ・自分の考えを自信を持って表現することが苦手

取り組みの基本的な考え方

- ・これまで行っていた言語活動を意識し直すことで授業力を更に高め、目指す生徒像に迫る
- ・全ての教育活動で言語活動を意識することで、「生きる力」を育む

取り組みの概要

- ・研究1年目：基礎知識と実践の方向性を共有
研究2年目：言語活動の具体的な実践イメージを描き、評価の観点のポイントを理解することを目指し、新学習指導要領の完全実施に備える
- ・言語活動を取り入れるプロセスを明確にし、各教科の年間指導計画を作成。研究会などで全教師が共有する

取り組みを続けるポイント

- ・「言語活動」は新しいキーワードのため、まず校長が基本計画やひな形を作成し、それを基に各教師が改善していく
- ・日々の授業観察を通じて、管理職と各教師がこまめに、授業づくりについて丁寧に話し合う

School Data

○ 1960（昭和35）年開校。
東京都の中央部、多摩地域に位置する。市内中学校初の通級指導学級を設置。自然教育にも力を入れている。2007年に中央が吹き抜けの新校舎が完成した。



校長○谷合しのぶ先生

生徒数○589人 学級数○16学級

所在地○〒183-0027 東京都府中市本町4-16-10

TEL○042-361-9303

URL○<http://www.fuchu03c.fuchu-tokyo.ed.jp/>

公開研究会○未定

「授業」で生徒を、学級を伸ばす

第2回

言語活動で授業を捉えなおす

豊かな内面性を自ら表現できる力を身に付けさせたい

府中市立府中第三中学校は、2011年度の校内研究のテーマを前年度に引き続き「言語活動の充実」と設定した。その背景となる生徒の現状と身に付けさせたい力を、谷合しおぶ校長は次のように話す。

「本校の生徒は感受性が強く、スピーチや運動会の選手宣誓、作文などの『場』を与えないと、内面にある豊かな言葉を紡ぎ出すことが出来ます。一方で、日常生活や授業の中で自分の考えを表現したり、自信を持って発言したりすることは苦手です。言語活動を通して、生徒が持っている豊かな内面性を日常的に自ら表現する力を付け、主体的に学ぶ力や人間関係力を高めたいと考えました」

そのために、まず、授業で各教科のねらいを達成するための言語活動を充実させることを中心にはじめた。そして、学校行事や生徒会、学級活動などの特別活動、日常的な場面での言語活動を、各教科での言語活動と意識的に有機的に関連させて効果を高めることを目指している。

漠然と行つてきた言語活動を理論付けして枠組みを作る

谷合校長は、言語活動の手法そのものは既に行っていることであり、全く新しい取り組

みを始めるわけではないことを校内で繰り返し伝えている。

「各教科にはねらいがあり、それを達成する授業を行うことが大前提となります。重要なのは、今まで漠然としてきたことを『言語活動』として意識し、理論を理解し、枠組みを作り、指導にしっかりと位置付けることだと思います」

具体的なプロセスは図1の通りだ。実践に当たり谷合校長は、急に「言語活動の充実」を掲げても、教員の足並みをそろえることは難しいと考えた。そこで10年度の1年間は、教師全員が、言語活動の基礎知識を得て、大まかでよいので実践の型や方法論をイメージできるようになることを目標とした（図1）。

「先生方には、頭の片隅で常に言語活動を意識するように伝え続けました。校内研修会には講師を招き、言語活動の効果や、従来の指導をひと工夫するヒントを話してもらいました。そうすることで、生徒の意欲や主体性をどうやって高める

図1 言語活動を充実させた授業づくりのプロセス(研究計画)

- ① 言語活動を正しく理解し、共通実践の方向性を明確にする
- ② 言語活動で身に付けさせたい資質・能力を明らかにし、生徒の実態を検証する
- ③ 学校全体で取り組む言語活動と、教科ごとに取り組む言語活動を明確化し実践する
- ④ 各教科が取り組む内容を整理する
 - ・どの単元で、どのように実施するのかを整理する
 - ・取り組む言語活動の指導上のポイントを明確にする
 - ・「考える」「話し合う」「表現する」などの活動時のポイントを明確にした指導をする
 - ・教材の工夫を図る。状況が見取れる工夫をする
- ⑤ 指導の目標（期待する生徒の効果）を明確にする
- ⑥ 言語活動についての取り組みと身に付けさせたい資質・能力を、生徒にも具体的に伝え、授業中に意識して取り組ませるようにする
- ⑦ 授業改善推進プランを具体的に提示し実践する
- ⑧ 指導状況や生徒の変容について評価し改善を図る
- ⑨ 次年度の指導計画に位置づけ、計画的に実践する

*同校の資料を基に編集部で再構成



府中市立府中第三中学校
校長
谷合しのぶ
Taniai Shinobu

「自分の生きがいを持ち、与えられた役割を認識しながら社会に貢献できる人材を育成したい」

教師が週ごとの指導計画を提出する際にかを考える際にも、『授業の中に言語活動を取り入れたらどうか』と意識できるようにしていきました」（谷合校長）

は、「国語でもグループ討論を取り入れてみては」「ワークシート形式にして質問を投げかければ、生徒はもっと主体的に勉強できるのではないか」など、少しずつ授業に言語活動を取り入れるように提案した。

日常的な授業観察を通して
こまめに改善案を話し合う

谷合校長は、毎日教室に足を運び、授業を見る。

「先生方を尊重しつつ、気になることがあれば、すぐ先生に伝えていきます。『あの部分は、単に計算させるだけでなく、具体物を使った方が、子どもはもっと主体的に取り組めるのでは?』など、的確で分かりやすい表現で伝え、良好な人間関係の中でよく話し合うよう心掛けています。また、授業の内容が良ければ、すぐに『良かったですね』と伝えることも大切にしています」

年3回行う授業観察の評価シートには一人ひとりにコメントを入れて渡す

などして、個々の教師とも真剣に関わっていく。こうして教師が納得しながら言語活動を意識するようになったことで、生徒の反応が良くなつていった。10年度末、こうした手応えを基に、研究主任が自主的に次年度の研修計画（言語活動）を作成した。

校内の足並みがそろつた11年度、校内研修会の1回目に、谷合校長は今年度の研究のねらいと概要をA3用紙1枚に明記し、教師に示した(図2。当日の様子はP.17~19参照)。これはプロセスの②③④に当たる「生徒の現状」「言語活動の充実を目指すことで高まる

図2 2011年度の研究のねらいと概要

言語活動の充実を通して 生徒一人一人に学び喜びと意欲をもたらす主体的に学習する力を身に付ける

生徒の現状

- 基礎学力の定着 ○低語彙量を活用する力 ○週に感じた言動 ○自分の考えを人前で表したり伝えたりする力
- 感想を書く際においては、自分の気持ちや考えを確かに表現することができる。

言語活動と授業改善

言語活動の充実を目指すことで高まる力

○言語活動を通して語彙力が向上し言語感覚を整備することで、表現力が高まる。
 ○読み取る力の向上を通じて心情理解が深まるとともに、内容理解する力が高まる。
 ○生徒の表現からコミュニケーション能力が高まることで、学校生活や授業等が活性化するとともに、人間関係力が向上する。
 ○表現力の向上により、話すことや表現することに自信をもたらし活動や学校活動が活性化する。
 ○表現力、コミュニケーション力を育むことで、自立心の向上が高まる。
 ○周囲から言語強制や結束力、表現力の向上により、互いを認め合うようになるとともに、自己有用感を育み、意欲や主体性が高まる。

身に付けさせたい力と目標す生徒像

①基礎的・基本的な学力を身に付けて、物事を考えることのできる生徒
 ②既往事項や体験したことを活用して、吸収取ることを表現することができる生徒
 ③事実を正確に理解し相手に伝えることのできる生徒
 ④自分自身を大切にすることともに、仲間や人の立場に立って考えた行動をすることができる生徒
 ⑤情報を分析・評議し、論理的で生きる生徒
 ⑥問題解決に向けて、予測、構思、実験、評価することができます生徒
 ⑦互いの思いを適切に伝え合い、自らの考え方や他団体の考え方を理解することができる生徒

研究の進め方

①新学年指導要領に示された各教科における言語活動についての正しい理解
 ②児童施設にいた指導方法についての共通理解 ⇒ 各教科で働くことに取り組む言語活動についての年間指導計画の作成
 ③各教科・判断力・表現力を育てるための授業展開・指導方法についての理解・工夫 ⇒ 研究授業を通して検討（6月、9月、1月）
 ④生徒の底本状況を把握するための評価方法の工夫 ⇒ 授業改善推進プランへの記載

研究に対する共通理解（教師が取り組むべき内容）

日常的な指導

■ 語彙力の育成

- 遊び、日常生活の場面での活用力の育成
- 道筋に廻った適切な言葉使いの力の育成
- 用語の意味に立った言葉遣いができる力の育成

■ 表現力の育成

- 自分の想いや文章や絵を使って表現することのできる力の育成
- 漢字かの育成
- 英単語
- 人前で自己をもつて自分の意見を表述することができる力の育成

■ 思考力・判断力

- 主体的に考える力の育成
- 人の意見や考え方を聞いて判断する力の育成

各教科・特別活動等

各教科別に設ける取り組み

読書… 手をこまねくこと、聞くこと、読みのこころのそれに、記憶、選択、発達、興味などを重視した指導。
 社会… 社会問題の現象は、要素を解説する学習や現象の特徴や事象間の関係を把握する学習などを重視した指導。
 数学… 數学的な表現を用いて、機械的にかじつけて現象を見て理解し、話し合うといった数学的な活動を充てさせた指導
 体育… 他団体との競争することによる競争意識を育む指導や、競争、競争的結果をかけ算解する学習活動。科学的な概念を使用してたり考えたり、説明したりするなど社会活動で実践された指導。
 英語… 指導する英語量を1,200語程度とする。発音にこだわりを特に指導を実施する。文法の指導は、意味活動と関連づけた指導を実施。
 美術… 美術そのものの過程に留意して指導する指導。
 音楽… 音楽を作っている過程や構成・曲のかけがえを理解して読み、規則をもつて批評するなどして、楽曲のよさやうつくしさを味わうことへ重きを置いた指導。
 美術… 感覚的およびよさしさで、作者の心情や憎りと創造的な表現の工夫。
 保健体育… 体幹を鍛えることの力の考え方をしたり、作業などでいつの筋に歩くかしたり、運動しようとする活動を実現して指導。
 技術・家庭… 作業や生活のづくりなどに関する器具の効果を確認し、容器する器具や道具が生活における課題を解決するための道具の使い方。
 特別活動・学校行事… 運動訓練による体力向上活動や話し合い活動、作品展での鑑賞、合唱を通して表現力、生徒会活動・ボランティア活動による伝えの力を重視した指導

成果の検証方法

生徒と教師が学習活動や日常生活を通じて実感できることが成長として大切である（各教科や学年活動等で検証する）

■ 前年に応じて実施した課題解決力で答える
 ■主な生徒はコミュニケーションをとることが得意
 ■誰かが意見があることがある
 ■文書を書くことができる
 ■問題解決力で工夫をする
 ■自分の意見をじっくりと聞いてくれる
 ■自分の意見を聞きながら意見を交換する
 ■自分の意見をもたらすために他の意見と一緒にまとめておる
 ■自分の意見をもたらすために他の意見と一緒にまとめておる

一番下の「成果の検証方法」に書かれている内容は、検証のポイントとして大切なだけではない。「**言語活動を取り入れた教育活動を続けると、こんな生徒の変容が見られる**」という、同校の目指す生徒像でもある

*上記は加工可能な形でウェブサイトからダウンロードいただけます
<http://benesse.ip/berd/> >情報誌ライブラリ（中学校向け）

り入れるだけでは、手段が目的化するだけでは、教師の指導力向上にはつながらない。指導案には、授業全体に関して、教科ごとの評価の観点に応じた評価規準と方法を記入する欄を設け、指導案の展開の中に評価規準、評価の観点、評価方法を明記する欄を設けた。

校長が示した案を基に 全員で協議

校長が率先して枠組み作りを進める理由を、谷合校長はこう話す。

「授業」で生徒を、学級を伸ばす

第2回

言語活動で授業を捉えなおす

は難しいことです。しかし、大枠やひな型があれば、それを基に自分で工夫しながらより良いものを作ることが出来ます。学校全体で新しい取り組みを始める時は、リーダーが道筋を明確に示すことが大事だと考えていました。私の場合、自分の考えを全て文章化し、先生方に配布しています。全ての先生に基本方針をぶれなく伝え、共有することが出来るからです。この考え方が正しいかどうかは分かりません。しかし、まずは私の案をたたき台として、先生方の意見も取り入れながら方向性を定めていければよいと考えています」

プロセスの⑤⑥⑦⑧にある、各教科で取り組む内容や指導内容の明確化などについては、研究主任が中心となり、各教師が研究授業や研究協議会、指導計画案づくりなどを通じて、主体的に取り組む。

「校長の仕事は大枠を示すことであり、その後は先生方に任せています。生徒の姿を最もよく知り、各教科のプロであるのは先生方ですから。もちろん、課題があれば一緒に解決法を話し合って考えますし、指導案にも改善を求めます。そこは真剣勝負です」（谷合校長）

各教科の計画と合わせて、行事や生徒会活動など、学年や学校単位での活動も検討する。例えば、校外学習の事前・事後学習でどのようない調べ学習や発表会を設けるのかを、言語活動の視点で位置付けていく。

「教科を通して学んだ言語活動を授業以外

の場面で生かし、それを再び教科に返す。その繰り返しこそが本当の『生きる力』を付けるのだと思います」（谷合校長）

11年度後半は、教科書研究に力を入れると共に、新学習指導要領の指導評価規準をじっくり読み込みながら、12月までに12年度の指導計画を完成させる予定だ。

「新学習指導要領の導入に向け、今しなければならないことは明確です。当たり前のことを当たり前に、確実に取り組み、目標を生徒を育てていきたいと思います」（谷合校長）

谷合校長が考える言語活動

生徒が授業で学んだ知識を自分の言葉で整理し、相手に分かりやすく伝えられるようになると、自分や他者に対する認知力が向上します。そうすれば、「こう言ったら相手が傷つくだろうから、こんなふうに言ってみよう」と相手を気遣う言葉を発することができ、人間関係力も向上します。人間関係の質が高まれば、学級集団も良くなる。言語活動は、学力を向上させるだけでなく、結果的に質の良いコミュニケーションが出来る集団を生み出せるものだと考えています。先生方にはそうした生徒の変化を実感し、教師としてのやりがいを感じただけるように支援していきたいと思います。

2011年度 第1回 校内研修会の様子

研究を始めて1年が過ぎた6月、言語活動を意識的に取り入れるようになつてから初めての校内研修会の様子を紹介する。

○研修会の概要

当日は1年生6クラスの全担任が数学、保健体育、理科、英語の授業を同時に公開。他の教師は、あらかじめ示された参観の三つの視点（①「学習のねらいに有効な言語活動であつたか」などの「言語活動の視点」、②「評価内容は学習状況を見取るのに適切だったか」などの「指導と評価の一體化の視点」、③教材・教具の使い方など「その他の授業改善の視点」）に沿って、「効果的だと思う点／自己の教科に活かしたい内容」と「工夫が必要と思う点／質問事項」を付せんに記入する。当日の放課後に研究協議会を実施。前半50分の分科会では、授業者が簡単な振り返りをした後、参観者（教科混成）が付せんの内容を発表し、議論。最後に指導主事が助言をする。途中、参観者が指摘した教材の工夫について、指導主事が授業者に一对一で具体的なアドバイスをする場面も見られた。

後半30分は、各分科会での議論内容を代表者（主幹教諭）が発表して内容を共有。その後、助言者の指導主事からの講評の後、谷合校長が、「言語活動シート」の趣旨を伝えた。

「言語活動シート」

○「言語活動シート」のひな型

想力力・判断力・表現力等を育む学習活動		(1)教科 (2)特待活動 (3)学校行事 (4)その他の活動で、取り組む具体的な実施内容
学校全体	1 体験から感じ取ったことを表現する力	1 (1) 俳諧の作成、学習レポート、図録等を提出。合唱 (2) 合唱伴奏等の取り組み、ボランティア活動 (3) 校外学習、学習旅行、運動会、各種祭典等における感想文 (4) 人権作文
	2 実事在正確に理解し伝達する力	2 (1) 対話的な学習の場面における構造報告会 (3) 校外学習等における構造結果報告
	3 算数・方程式など解説し、説明したり活用したりする力	3 (1) 各教科において授業したことを活用して問題を解いたり、課題を解決したりすることのできる力 (2)(3) 実生活の場面に基づいた学習活動
	4 情報を分析・整理し、結論にする力	4 (1) 結論資料等の活用を通じた分析活動、その結果を活用する (2) 学級・委員会等において話し合い活動等による問題解決力
	5 探求について想を立て実験し、計画・改善する力	5 (1) 探求探究的な学習を通して問題・探し出し、実験、実践を通して、その結果から探求・改善する力 (2)(3) 取り組み結果を振り返したり、週次に評議し改善する力
	6 互いの考え方を思いきり自らの意見や他者の意見を併せ置かせる力	6 (1) 探求探究的な学習を通じて、自らの意見を伝え合う力 (2) 生徒会活動、学級活動等に対する学校・学級・学年等の問題解決を図り、向上させるための話し合い活動
日常的指導	1 読解力の育成	○教科、丁寧解説等の通じやすさ用力の育成 ○意匠に応じた適切な音楽要素ができる力の育成 ○相手の立場に立った選択選ばができる力の育成 ○全教育活動の場面における発展(教科・学級活動・行事・船出式)
	2 表現力の育成	○自分で表現を文や言葉を使って表現することができる力の育成 ○人前で自信をもって自分の考えを発表することができる力の育成 ○各教科・学年・寺祓・生徒会活動等による総会・会議の場での発表
	3 思考力・判断力	○生体力的に考える力の育成 ○意見や考え方を開いて判断する力の育成 ○ディベート等の場の運営、各教科・学級等による話し合い活動、発表会等の場面での意見の交換
教科名		各教科の言語活動時間のポイント
		単元ごとの言語活動時間割
		4月 5月 6月 7月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月
各教科	国 语	話すこと、書くこと、聞くこと、読むことのそれぞれに記録、要約、説明、論述などを重視する。
		1 2 3 年
		1 2 3 年
		1 2 3 年
英 語	指導する語の種類を1200語程度とする。我慢と振りを掲げた指導を実施する。文法の指導は、言語活動と関連づけた指導を実施する。日本語との違いに留意した指導を実施する。	1 2 3 年
		1 2 3 年
		1 2 3 年
社会	社会的事象の意味、意義を察知する学習や事象の色や事象間の関連を察知する学習などを重視する。	1 2 3 年
		1 2 3 年
		1 2 3 年

*図は一部抜粋。資料の全体は加工可能な形でウェブサイトからダウンロードできます <http://benesse.jp/berd/> >情報誌ライブラリ（中学校向け）

○「言語活動シート」の活用ステップ

ステップ 1 教科単位で作成…各学年、各単元でどのような言語活動を取り入れるのかを意図的・計画的に進めるための土台とする。各教科会で、今回の研修から1か月ほどかけて作成する。

ステップ 2 全教科でまとめる…各教科分をまとめ、一覧できるシートにする。ここまでが11年度の作業目標だ。次年度以降、「総合的な学習の時間」や学級活動などあらゆる教育活動でも活用できるようにする。

司会 いや、今回は4観点のうち表現・処理を重視したものではないので、答えを出すための別の授業のパ

授業者 確かに、一部の子どもは混乱していて、期末テストに向けて補習の必要を感じている。

計算が出来ない子どもが一定数いたので、3人全員の理解度が低い場合は時間の無駄ではないか。理解できないまま進んでしまう懸念があり、今の段階でどうにかしないといけない。

主幹教諭が司会進行役となり、参観の三つの視点のうち「言語活動の視点」に絞つて協議した。

●分科会の様子（数学分科）

ターンがあるので。今回は「見つける」という尊人の部分が健だったのをそれを義理論し

卷之三

参観者 4つの数を使って合計を10にする
ゲームは、楽しみながら四則計算のきまりを

参観者 4つの数を使って合計を10にするゲームは、楽しみながら四則計算のきまりを習得できる良い方法だと思った。授業の最後にあえて間違っている子に解き方を説明させ、間違えた点を全員で共有した点について

はなく全員を正す良い指導だと感じた。

参観者 楽しく活動していたが、それだけではいけない。単に話し合いをさせるよりも、理解の進んでいる子が分からぬ子に教えてあげるようにする形態の方が良かつたのでは

参観者 子どもたち自身が、自分の考えを話

したり、分からぬから聞いたり、それに対して答えたりする学習形態に慣れていな
い。これがスムーズに出来る力を付けさせた

い。もう一つ気付いた点は、教師とのコミュニケーションだ。授業者が、問題を各自で解いてから自分の意見を述べさせた場合

がせた後は分かった子は拳手させた場面があつたが、あそこでほとんどの手が拳がるまでじっと待っていた。コミュニケーションの

一つの形であり、良いと思った。講義形式の授業と比べて全ての理解度の子が意欲的に学び、力が付くと思う。

司会 発表の仕方は課題。特に、数学ならではの、「理論や根拠に基づいた説明の仕方」は、

特集

「授業」で生徒を、学級を伸ばす

第2回

言語活動で授業を捉えなおす

図4

校内研修会用「指導案(数学)」

<p>授業は目標に始まり、目標に終わります</p>		<p>平成23年度 商中第三中学校 校内研修用指導案「言語活動の視点を取り入れた学習指導」</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%;">①実施日</td> <td>6月16日(木)</td> <td style="width: 5%;">②授業者・学級</td> <td>千葉 光・1年A・B組</td> </tr> <tr> <td>③教科名</td> <td>数学</td> <td>④単元名(題材名)</td> <td>正の数・負の数</td> </tr> <tr> <td>⑤単元目標</td> <td colspan="3">数の範囲を拡張して計算の可能性を広げ数についての処理がいっそう手際よくできるようになります。</td> </tr> <tr> <td>⑥本時の指導目標</td> <td colspan="3">四則混合計算のきまりを理解することができる。</td> </tr> <tr> <td>⑦単元における言語活動の視点</td> <td colspan="3">加法・減法・乗法・除法や、その混合計算の方法を説明する。</td> </tr> <tr> <td>⑧本時ににおける言語活動</td> <td colspan="3">計算のきまりにしたがって、四則混合計算の仕方を説明する。</td> </tr> <tr> <td>⑨本時の授業改善</td> <td colspan="3">教具等を利用して、生徒の発言・活動の時間増やす。 生徒主体の授業をより進める。</td> </tr> <tr> <td>⑩本時の評価規準と評価方法(指標と評価の一体化)</td> <td colspan="3">○知識・理解: 四則の混じった式や括弧のある式において、括弧や乗除の優先のきまりについて理解する。</td> </tr> <tr> <td>⑪本時の指導計画</td> <td>◎言語活動</td> <td>■授業改善の視点(工夫点)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>展開時間 導入(5分)</td> <td colspan="3"> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 5%;">指導内容・方法</th> <th style="width: 5%;">評価規準・方法</th> </tr> <tr> <td>○挨拶・出席確認・服装指導 ○本時の指導目標の提示 ○本時の学習内容の提示</td> <td>○《知識・理解》四則の混じった式や括弧のある式において、括弧や乗除の優先のきまりについて理解する 評価方法: 発言内容ワークシート</td> </tr> </table> </td> </tr> <tr> <td>展開時間 ⑫40分</td> <td colspan="3"> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%;">課題</td> <td>一連の計算式から間違いを探す(全7問) (ワータイト1) ■大きなカードを用いて、板書時間を少なくする。</td> <td style="width: 5%;">○《知識・理解》四則の混じった式や括弧のある式において、括弧や乗除の優先のきまりについて理解する 評価方法: 発言内容ワークシート</td> </tr> <tr> <td>まとめ(5分)</td> <td>○本時の学習内容の振り返り ○課題、学習評価等の提示 ○次回の授業の予告</td> <td>○《知識・理解》四則の混じった式や括弧のある式において、括弧や乗除の優先のきまりについて理解する 評価方法: 発言内容ワークシート</td> </tr> </table> </td> </tr> <tr> <td colspan="4" style="text-align: center;">⑯の授業改善の視点・工夫点について詳しく記載します</td> </tr> </table>		①実施日	6月16日(木)	②授業者・学級	千葉 光・1年A・B組	③教科名	数学	④単元名(題材名)	正の数・負の数	⑤単元目標	数の範囲を拡張して計算の可能性を広げ数についての処理がいっそう手際よくできるようになります。			⑥本時の指導目標	四則混合計算のきまりを理解することができる。			⑦単元における言語活動の視点	加法・減法・乗法・除法や、その混合計算の方法を説明する。			⑧本時ににおける言語活動	計算のきまりにしたがって、四則混合計算の仕方を説明する。			⑨本時の授業改善	教具等を利用して、生徒の発言・活動の時間増やす。 生徒主体の授業をより進める。			⑩本時の評価規準と評価方法(指標と評価の一体化)	○知識・理解: 四則の混じった式や括弧のある式において、括弧や乗除の優先のきまりについて理解する。			⑪本時の指導計画	◎言語活動	■授業改善の視点(工夫点)		展開時間 導入(5分)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 5%;">指導内容・方法</th> <th style="width: 5%;">評価規準・方法</th> </tr> <tr> <td>○挨拶・出席確認・服装指導 ○本時の指導目標の提示 ○本時の学習内容の提示</td> <td>○《知識・理解》四則の混じった式や括弧のある式において、括弧や乗除の優先のきまりについて理解する 評価方法: 発言内容ワークシート</td> </tr> </table>			指導内容・方法	評価規準・方法	○挨拶・出席確認・服装指導 ○本時の指導目標の提示 ○本時の学習内容の提示	○《知識・理解》四則の混じった式や括弧のある式において、括弧や乗除の優先のきまりについて理解する 評価方法: 発言内容ワークシート	展開時間 ⑫40分	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%;">課題</td> <td>一連の計算式から間違いを探す(全7問) (ワータイト1) ■大きなカードを用いて、板書時間を少なくする。</td> <td style="width: 5%;">○《知識・理解》四則の混じった式や括弧のある式において、括弧や乗除の優先のきまりについて理解する 評価方法: 発言内容ワークシート</td> </tr> <tr> <td>まとめ(5分)</td> <td>○本時の学習内容の振り返り ○課題、学習評価等の提示 ○次回の授業の予告</td> <td>○《知識・理解》四則の混じった式や括弧のある式において、括弧や乗除の優先のきまりについて理解する 評価方法: 発言内容ワークシート</td> </tr> </table>			課題	一連の計算式から間違いを探す(全7問) (ワータイト1) ■大きなカードを用いて、板書時間を少なくする。	○《知識・理解》四則の混じった式や括弧のある式において、括弧や乗除の優先のきまりについて理解する 評価方法: 発言内容ワークシート	まとめ(5分)	○本時の学習内容の振り返り ○課題、学習評価等の提示 ○次回の授業の予告	○《知識・理解》四則の混じった式や括弧のある式において、括弧や乗除の優先のきまりについて理解する 評価方法: 発言内容ワークシート	⑯の授業改善の視点・工夫点について詳しく記載します				<p>共通の授業の視点です</p>
①実施日				6月16日(木)	②授業者・学級	千葉 光・1年A・B組																																																								
③教科名				数学	④単元名(題材名)	正の数・負の数																																																								
⑤単元目標				数の範囲を拡張して計算の可能性を広げ数についての処理がいっそう手際よくできるようになります。																																																										
⑥本時の指導目標				四則混合計算のきまりを理解することができる。																																																										
⑦単元における言語活動の視点				加法・減法・乗法・除法や、その混合計算の方法を説明する。																																																										
⑧本時ににおける言語活動				計算のきまりにしたがって、四則混合計算の仕方を説明する。																																																										
⑨本時の授業改善				教具等を利用して、生徒の発言・活動の時間増やす。 生徒主体の授業をより進める。																																																										
⑩本時の評価規準と評価方法(指標と評価の一体化)				○知識・理解: 四則の混じった式や括弧のある式において、括弧や乗除の優先のきまりについて理解する。																																																										
⑪本時の指導計画				◎言語活動	■授業改善の視点(工夫点)																																																									
展開時間 導入(5分)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 5%;">指導内容・方法</th> <th style="width: 5%;">評価規準・方法</th> </tr> <tr> <td>○挨拶・出席確認・服装指導 ○本時の指導目標の提示 ○本時の学習内容の提示</td> <td>○《知識・理解》四則の混じった式や括弧のある式において、括弧や乗除の優先のきまりについて理解する 評価方法: 発言内容ワークシート</td> </tr> </table>			指導内容・方法	評価規準・方法	○挨拶・出席確認・服装指導 ○本時の指導目標の提示 ○本時の学習内容の提示	○《知識・理解》四則の混じった式や括弧のある式において、括弧や乗除の優先のきまりについて理解する 評価方法: 発言内容ワークシート																																																							
指導内容・方法	評価規準・方法																																																													
○挨拶・出席確認・服装指導 ○本時の指導目標の提示 ○本時の学習内容の提示	○《知識・理解》四則の混じった式や括弧のある式において、括弧や乗除の優先のきまりについて理解する 評価方法: 発言内容ワークシート																																																													
展開時間 ⑫40分	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%;">課題</td> <td>一連の計算式から間違いを探す(全7問) (ワータイト1) ■大きなカードを用いて、板書時間を少なくする。</td> <td style="width: 5%;">○《知識・理解》四則の混じった式や括弧のある式において、括弧や乗除の優先のきまりについて理解する 評価方法: 発言内容ワークシート</td> </tr> <tr> <td>まとめ(5分)</td> <td>○本時の学習内容の振り返り ○課題、学習評価等の提示 ○次回の授業の予告</td> <td>○《知識・理解》四則の混じった式や括弧のある式において、括弧や乗除の優先のきまりについて理解する 評価方法: 発言内容ワークシート</td> </tr> </table>			課題	一連の計算式から間違いを探す(全7問) (ワータイト1) ■大きなカードを用いて、板書時間を少なくする。	○《知識・理解》四則の混じった式や括弧のある式において、括弧や乗除の優先のきまりについて理解する 評価方法: 発言内容ワークシート	まとめ(5分)	○本時の学習内容の振り返り ○課題、学習評価等の提示 ○次回の授業の予告	○《知識・理解》四則の混じった式や括弧のある式において、括弧や乗除の優先のきまりについて理解する 評価方法: 発言内容ワークシート																																																					
課題	一連の計算式から間違いを探す(全7問) (ワータイト1) ■大きなカードを用いて、板書時間を少なくする。	○《知識・理解》四則の混じった式や括弧のある式において、括弧や乗除の優先のきまりについて理解する 評価方法: 発言内容ワークシート																																																												
まとめ(5分)	○本時の学習内容の振り返り ○課題、学習評価等の提示 ○次回の授業の予告	○《知識・理解》四則の混じった式や括弧のある式において、括弧や乗除の優先のきまりについて理解する 評価方法: 発言内容ワークシート																																																												
⑯の授業改善の視点・工夫点について詳しく記載します																																																														
⑰の授業改善の視点・工夫点について詳しく記載します				<p>共通の授業の視点です</p>																																																										

上記のシートは、Benesse教育研究開発センターのウェブサイトから加工可能な形式でダウンロードできます。

<http://benesse.jp/berd/> >情報誌ライブラリ(中学校向け)

葉先生)



上記のシートは、Benesse教育研究開発センターのウェブサイトから加工可能な形式でダウンロードできます。

<http://benesse.jp/berd/> >情報誌ライブラリ(中学校向け)

- ・ 分科会で、グループ学習の仕方や人數割などについて、他教科の先生からたくさんのアドバイスをもらえて参考になりました。これから始まる習熟度別の授業で生かしたいです (数学・千葉先生)

● 研修会を終えて、授業者の感想

・ 言語活動を意識した授業とはどんなものかを実感し、今までの授業を振り返る良い機会になりました。特に分科会での議論が、教科や経験年数に関係なく発言し合えたので、最も勉強になりました (数学・延本先生)

について、授業を積み重ねながら育てていく必要性を感じた。授業時数と指導内容とのバランスがあるし、今回みたいなことは毎回出来ない。こうしたことを踏まえた年間カリキュラムを作つていけばよい。

指導助言者 今日の授業は、表現をする場面を意識的につくり、子どもたちが意欲的に取

り組んでいた点が良かった。こうした授業を1年生で行っていることが重要で、今後も続けると、3年生になれば、必ず上手に表現できるようになる。数学では、数学の力を深化させることと、全体で共有することのために言語活動を行っている。数学科の目標に「数学的活動を通して」とあるが、ここを押さえ

ることが重要だ。また、子どもの言語活動を周囲が支えることも大切になる。例えば、子どもが発表する時に、先生が「静かにさせる」「注目させる」ことによって、気持ちよく発表させていたので、伸びしろがあると感じた。課題は、「考える」と「発表する」の両方を50分に押し込んだために、時間が足りなかつた点。また、課題の難易度が高かったので、もっと簡単にした方が、子どもは考えを巡らせることが出来たのではないか。言語活動は日々の姿勢が大事。話し掛ける子どもの方向を向いて話すなど、先生自身の積み重ねで子どもも変わる。3年後の姿を期待して、頑張っていただきたい。